2025.05.18（日）

【ご報告】第３回 川崎支部 過去を風化させないシリーズ（第九陸軍技術研究所）

川崎支部 支部長　山岸一雄

○川崎支部の「過去を風化させないシリーズ」の趣旨は、秘められた戦争の裏側など、記録・記憶にとどめておかなければならない事柄を、一般者・校友会会員・OB/OG・在校生と連携し、社会と結びつく場です。

○明治大学から学ぶべき点：

明治大学平和教育登戸研究所資料館（職員は明治大学ではない）は明治大学がオーナーで、運営費用を出しています（国や川崎市ではない）。明治大学は過去を風化させないために、「登戸研究所という機関の行ったことがらを記録にとどめ、大学として歴史教育・平和教育・科学教育の発信地とするとともに、多年にわたり、登戸研究所を戦争遺跡として保存・活用することをめざして地道な活動を続けてきた、地域住民・教育者の方々との連携の場とする」と設立趣旨に明記しています。

○開催日時：2025 年 05 月 10 日（土）　10：00～13：00（川崎市多摩区生田 明治大学内）

○戦前に旧日本陸軍によって会査閲された研究所です。ここでは防諜（スパイ活動防止）・諜報（スパイ活動）・謀略（破壊・かく乱活動・暗殺）・宣伝（人心の誘導）の為の様々な秘密戦兵器が開発されました。

○登戸研究所（正式名：明治大学平和教育登戸研究所資料館－第九陸軍技術研究所）の研究内容や、どこで開発された兵器・資材等は、時には人道上あるいは国際法規上、大きな問題を有することが含まれています。

○参加者は 25 名（内 女性は 6 名）。内訳は、川崎支部 7 名、東京支部 4 名、横浜支部 2 名、神奈川・湘南支部 1 名、学科 OB 会 2 名、一般者名 6 名、在校生 3 名。

○参加した方々（希望者のみ参加）と、川崎支部や校友会本部への提案の意見交換が出来ました。（例：これまで川崎支部の行事を東京支部長や幹事長に会員に配信をお願いしました。参加者にお聞きすると、行事開催の連絡がないが、今回の様に川崎支部から連絡配信（校友会オンラインで東京＋横浜＋神奈川・湘南支部会員への同時配信）が有ったので参加できて嬉しい、他支部の方と知り合いになれたとのご意見を頂きました。

⇒　関東甲信越エリアの会員に、校友会オンラインで配信することで他支部との距離が縮小され、活性化につながると考えます。

○登戸研究所から学んだ点：

① 旧日本軍の研究施設をそのまま保存・活用して資料館にした全国で唯一の事例を大学が運営している点。

② 歴史に殆ど記録されていない秘密戦に焦点を当て、当時の研究室に携わった方々を地道に記録に残した点。

③ 今回は人体実験（中国や韓国においても行われた）等を実証的・視覚的に展示し、広く情報を開放し、歴史的事実として語り継いでいる点。

④ 一般市民・教員・高校生などが、元職員と面談し、戦争の暗部を解明するきっかけをつくった点。

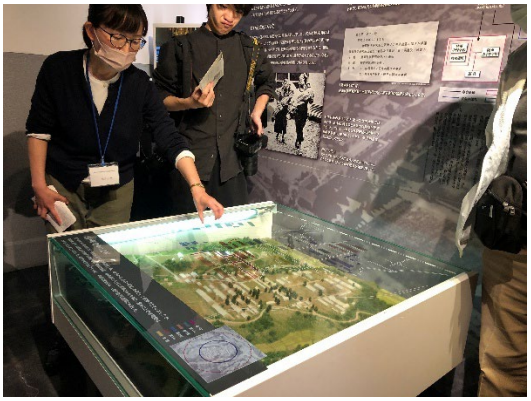
⑤ 生体実験での犠牲者（動物を含む）慰霊塔を敷地内に建立し、供養を継続していた点。

⑥ 八木秀次（東工大学長）元学長が登戸研究所の顧問をし、戦争に深くかかわっていた。

（集合写真）

（中段赤いジャケットが山岸支部長）

（登戸研究所の誕生）



（元所員の聞き取りや研究所の内容説明）　　（敷地全体模型での説明）

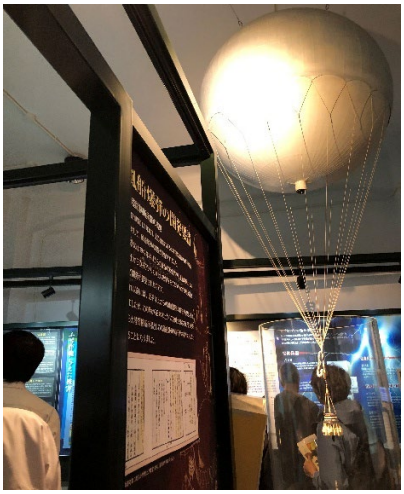
（天井の球形照明器具は、実際に研究室で使用された照明器具）

（電波・無線の傍受、毒物・薬物・生物兵器（細菌兵器）、スパイ用品、偽札（相手国のインフレ誘導）・偽造パスポート製造－水面下での欧米諸国への秘密戦の強化）

（1944 年時点で、敷地 11 万坪、建物約 100 棟、技術将校・技師・技手（ぎて）等の幹部 250 名、一般の雇員・工員等、計 1,000 名。）

（登戸研究所は政府の方針に縛られないで、自由に秘密戦の研究開発が出来た）

（化学薬品を多量に使用するので、障害者や死亡者が多数発生した様である）



（陸軍中野学校・憲兵隊との結びつきが強い）（風船爆弾の縮小模型（実物の 1/10－気球は女学生が貼合わせる―9,300 発作製、直径 10m、総重量 200kg）

（風船爆弾はアメリカ本土を直接攻撃する大陸間横断兵器で、和紙をこんにゃく糊で張り合わせ、気球内に H2 ガス 60%を充填し、偏西風で 9,000 ㎞の飛行をして牛疫ウイルスの散布や焼夷弾 2 発の投下）（下部の砂袋も和紙で作成）

（オレゴン州で民間人 6 名死亡。製作費 1 万円（現在の約 1,000 万円－ゼロ戦（1 億円）の 1/10）

（生物化学兵器としての風船爆弾）

（風船爆弾の飛行実験地と放球地）

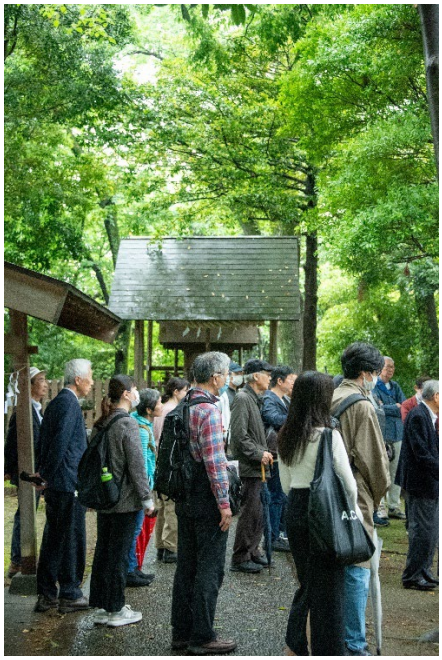
（人体実験地）

（本土決戦における登戸研究所の移転先と役割り）（本土決戦に備えた細菌が入った水

をろ過する石井式ろ過機（フィルターは筒状－軍事秘密の刻印あり）－左のケース内）

（使用された毒ガスマスク）

（構内の旧弾薬庫－温湿度管理をする前室）



（慰霊碑付近）

（五号棟跡地）

＊終戦後は GHQ に研究内容を全て譲り渡すことで、元所員の処分を逃れた。

以　　上